

A・MUSEUM

vol.91
[2017.6.15]



ミュージアムパーク
茨城県自然博物館



シロワニ

(提供: アクアワールド茨城県大洗水族館)



最小のサメの一種 ツラナガコビトザメ

秋“サメ”前線がやってくる！

サメは世界中に約500種が存在し、日本の近海にも約100種が生息しています。人を襲う凶暴な魚というイメージの強いサメですが、実際に危険な種類はごく一部にすぎません。世界中の海に生息し、10mを超える巨大な種から手のひらほどの小さな種まで体の大きさもさまざまです。多様な環境に適応した結果、その形態・生態は非常に多岐に渡り、サメという生物を表現する最もふさわしい言葉は「多様性」であるという魚類学者もいます。

10月から開催する第70回企画展では、国内有数の規模と内容を誇る当館のサメコレクションをご紹介します。この企画展でしか見ることのできない貴重な標本も展示いたしますので、ぜひご期待ください。
(資料課 土屋 勝)

**第69回
企画展**

昆虫大研究プロジェクト -あなたも研究者 みんながつくる昆虫展- Insect Research Project: Be a researcher and participate in the exhibition!

2011年夏、震災の復興もままならぬ時期でしたが、当館では企画展「昆虫大冒険-タケルとケイの不思議な旅-」を開催し、心の傷をいやすかのような熱気ある展示を行いました。あれから6年、再び昆虫展を開催する運びとなり、当時ナビゲーターとして登場させたタケルとケイが、どのように成長したかをストーリーに反映させた展示構成にしたいと考え、企画がスタートしました。以下、今回の見所を紹介しましょう。
あれから6年（タイトル決定の理由）

タケルは中学3年生、ケイは小学5年生に成長しました。二人とも昆虫に関する熱い想いは冷めず、学芸員と昆虫の自由研究に取り組んでいます。夏の博物館は問い合わせなどで大忙し。仕事に追われる学芸員の姿をみたタケルとケイは、自分たちにできることを考え、ある企画をたてました。“自由研究のヒントになる展示をつくれば、たくさんの子どもの役に立つ！”タケルとケイの夏休み一大プロジェクトがはじまりました！名付けて「昆虫大研究プロジェクト」！
まずは名前を知ること（多くの標本展示）

相手を知る第一歩は名前を知ることですが、身近な昆虫でも意外と正式な名前は知られていません。そこで、簡単な検索表と共に、身近な昆虫をできるだけ多

く展示します。また、昆虫といえばヘラクレスオオカブトなど外国産の昆虫も欠かせません。生きた昆虫とあわせて、約1万点の資料を展示します。嫌われもの筆頭(?)のゴキブリは、突発的にタッチング・イベントを開催します。

子どもたちの自由研究（研究してもらいました）

自由研究のヒントになる展示は、子どもたちが実際に行った研究を紹介するのが1番と考え、2016年春に研究生を募集し、1年かけて行われた研究の成果を展示します。研究生は約40人、一般の方々からの展示も含め70を超える研究の成果をご覧ください。ドイツ箱（昆虫標本箱）の中に標本を必ず入れることを条件に作品を仕上げてもらいましたので、学校の理科自由研究とは、また違った表現を楽しんでください。

ボランティアの活躍（体験ブースの設置）

先に示した自由研究の作品展示のように、博物館の展示は学芸員による展示ではありません。多くの協力者のバックアップがあつての展示です。その中で、いつも裏方でご協力いただいている博物館ボランティアの活動紹介もあわせて、体験ブースの運営をボランティアにお願いしました。どんな体験活動が用意されるか楽しみにしてください。（資料課 久松正樹）



6年前の企画展「昆虫大冒険」のナビゲーター 左:ケイ(幼稚園) 右:タケル(小3)



子どもたちに人気のヘラクレスオオカブトの標本



研究生 樋野夏希くんのアカボシゴマダラの研究

会 期 2017年7月8日(土)～9月18日(月・祝)

7月8日(土)は午後1時から公開となります。

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休 館 日 毎週月曜日

※7月17日(月)、9月18日(月)は開館し、翌日が休館となります。

※8月14日(月)は開館します。

●**自然観察会** ヘイケボタルの生きる環境を見よう

日 時: 7月16日(日) 19:00～21:00

場 所: 博物館内

対 象: どなたでも(18歳以下は保護者同伴)

定 員: 一般30名、友の会会員30名 計60名(事前申込み・抽選)

●**自然観察会** 挑戦! オールナイト昆虫観察! 2017

日 時: 7月22日(土)～23日(日) 10:00(宿泊を伴います)

場 所: 博物館・水海道あすなろの里(博物館集合)

対 象: 小学生以上(小学生は保護者同伴)

定 員: 一般30名、友の会会員30名 計60名(事前申込み・抽選)

備 考: 宿泊費や食事代などの実費負担あり

●**自然観察会** 昆虫連続観察会

日 時: 8月5日(土)、12日(土)、19日(土)、26日(土) 10:00～12:00

講 師: 榎本友好氏(8/5、茨城県環境アドバイザー)、当館職員(8/12)、廣瀬 誠氏(8/19、茨城県環境アドバイザー)、井上大成氏(8/26、森林総合研究所多摩森林科学園)

場 所: 博物館内

対 象: どなたでも

定 員: 30名(事前申込み・抽選)

●**自然講座** ファーブルじいさんからのメッセージ

日 時: 8月6日(日) 13:30～15:30

講 師: 矢島 稔氏(ぐんま昆虫の森名譽園長)、廣瀬 誠氏(茨城県環境アドバイザー)、芳賀和夫氏(元筑波大学教授)

場 所: 博物館内

対 象: 小学生以上(小学生は保護者同伴)

定 員: 270名(事前申込み・先着順)

動物標本のつくり方

博物館の標本 1

当館には、2017年4月現在で約36万点の標本が収蔵されています。博物館の「命」でもある標本はどのようににつくられ、利用されているのでしょうか。シリーズでご紹介します。

動物の標本にはさまざまなタイプがあり、作製方法は多岐に渡りますが、長期間腐らせずに標本を保存することを共通の目的としています。美しい羽根をもつチョウや甲虫などの昆虫は、形を整えて乾かすことで利用しやすく長期間保管が可能な標本となります。魚類や両生類、軟体動物など軟らかい組織が多い動物はエタノールやホルマリンに漬けた「液浸標本」の形で保管されます。鳥類や哺乳類では毛皮を剥いで剥製にするのが一般的です。ここでは陸上哺乳類の標本のつ



液浸標本、鳥類の仮剥製・本剥製、昆虫標本など

くり方について簡単にご紹介します。

- ①**材料の入手**：交通事故で死んだ個体や、学術捕獲、駆除された個体などが対象となります。
- ②**解剖・分析サンプルの採取**：まず目で確認しながら、体に付いたダニや寄生虫を採取します。またメスで解剖し、食性を調べるための胃や腸の内容物、遺伝子などの解析のための臓器や筋肉などの組織サンプルを採取します。
- ③**皮剥ぎ**：メスを使い体から皮を剥がします。剥いだ皮の内側に付いた脂肪は腐敗のもととなるため、可能な限り取り除きます。これを薬液に漬けて防腐処理を行ったものをなめし皮とよび、整理・保管しやすい形に整えたものを仮剥製、生きているときのようすを再現したものを本剥製とよんでいます。
- ④**骨格標本の作製**：皮を剥いだ後の体から骨を取り出します。まず、不要な肉を可能な限りメスなどで取り除き、その後、長時間煮込むか薬品でタンパク質を分解するなどして肉の除去を行います。水での洗浄および薬品を用いた漂白、脱脂を行うと骨格標本の完成です。

こうしてできた標本は、採取年月日や採取地などを記載したラベルを付記して保管され、さまざまな研究に生かされていきます。（教育課 後藤優介）



皮を剥いだタヌキ



タヌキの本剥製(左)と仮剥製(右)



アライグマ頭骨の洗浄作業

“自然”の博物館

博物館の約16ヘクタールの野外施設には、いろいろな生きものがあります。チョウやトンボが飛び、池にはカメやカエルがいて、田んぼや周辺の小川には、メダカやエビを見ることができます。夏の夜にはホタルが舞う光景も見られます。また、モグラがかき出した土がいたるところに山盛りにされ、負けずにアリも巣をつくっています。きっと地下には無数のミミズがいるのでしょう。キノコやコケ、植物も多くの種類が

あり、例えば秋には7種類のドンブリを見ることができます。博物館では、これらの自然を生かしたさまざまな観察会が行われています。先日は、昼間からタヌキが散歩し、イタチがキョロキョロし、本館のすぐ近くで、オスのキジ2羽が喧嘩していました。自然博物館としては、うってつけの場所につくられたといえるでしょう。できれば、恐竜の化石が出る小山がほしいと思っていますが、贅沢な話でしょうか？

館長コラム by director YOKOYAMA



イラスト：滝本麻衣子(ミュージアムコンパニオン)

ラオス昆虫採集記

海外調査報告 1

私の研究テーマは、花バチがどんな花に訪れるかを調べたり、茨城県にどれくらいハチが生息しているかを調べたりすることです。新しいハチに出会ったとき、新しい発見に出会ったときなどは、心躍るものです。しかし、ハチだけではなく、今までにない美しい出会いを求めて、未知の世界をのぞきたくなることもあります。今回は、同僚の中川主任学芸主事と昆虫ボランティアのみなさんで行ったラオスでの昆虫採集をご紹介します。夏に開催する企画展「昆虫大研究プロジェクト」を目前に、昆虫採集の楽しさが伝われば幸いです。

ラオスは、インドシナ半島の内陸にあり、国土の7割は高原や山岳地帯です。人口は約700万人、首都はヴィエンチャンです。私たちがおもに採集を行ったヴァンヴィエンはヴィエンチャンから車で3時間、ナムソン川と緑豊かな山々にかこまれ、静かな佇まいをもつ町です。

ヴァンヴィエンに到着した2017年3月2日、昼食を早々にすませ、近所の採集ポイントを散策しました。そこでさっそく出会ったのがテングハゴロモです。つかまえたときバタバタ暴れる様は、同じなかまのセミと似ています。



テングハゴロモ



採集したゴマフタオチョウ



ヴィエンチャンのワット・ホーバケオ寺院
昆虫ボランティアのみなさんと

ヴァンヴィエンには3月7日まで滞在しました。その間にいくつかの採集ポイントを訪れ、さまざまなチョウを採集することができました。日本には生息しない昆虫を見られたときのうれしさはひとしおです。中でもフタオチョウの採集には心躍りました。このなかまは糞に集まる習性があります。林道に転がっている獣糞をさがし、じっと待つこと十数分、いろいろな虫がやってきます。私たちが訪れた3月は乾季でしたので、乾いた獣糞に水をかけ、十分ほぐして匂いを拡散させるのが採集のコツです。フタオチョウを含め、採集した資料については夏の昆虫展で紹介する予定です。

はじめての虫に出会うことと共に、異国の情緒を体験できるのも楽しみです。食事そのひとつで、主食はもち米、「ティップカオ」とよばれる竹で編んだ入れ物に入って出てきます。また、ラオスの代表的なビールで、水と同じ値段の「ラオビアー」も、今回の旅行には欠かせない一品でした。

とりとめのめない採集記を記しましたが、新しいものとの出会い、新しい考えとの出会いは素敵なものです。ひとりの昆虫研究者として、みなさんにも昆虫を通して新たな発見をしてほしいと願っています。

(資料課 久松正樹)

あなたの誕生星座

星座は全部で88個あります。その中で、太陽の通り道にある12の星座が占いなどでよく用いられる誕生星座です。太陽の通り道を黄道というので、黄道12星座ともよばれます。昔は、太陽が大きな力をもつと考えられていました。そして、ある人が「生まれてきたときに太陽と同時にのぼる星座が、その人の運命を左右する」と考えたようです。その考えが、星占いなどに使われるようになりました。例えば1月1日

生まれの人の誕生星座はやぎ座です。1月1日に太陽と同時にやぎ座ものぼり、太陽と一緒に沈んでしまうため、自分の誕生日の夜、自分の誕生星座を見ることはできません。自分の誕生星座を見るには、誕生日の3か月くらい前の夕方、南の空を見上げてみましょう。星座は人間の想像でつくられたものですが、何かを決めるとき星に運命を託してみるのもいいかもしれませんね。(ミュージアムコンパニオン 大根田静夏)

小さな発見—ミュージアムコンパニオン—



やぎ座

モロッコの植物調査

海外調査報告 2

2017年2月26日から3月8日の日程で、モロッコでの植物調査に参加しました。この調査は筑波大学北アフリカ研究センターが主催するもので、川田清和氏をリーダーとして、日本から3名とモロッコから1名の研究者で実施されたものです。この研究は、北アフリカ乾燥地における有用植物資源の探索を目的としたもので、今回はその基礎研究として、モロッコの乾燥地に生育する植物の分布を調査しました。

調査はアフリカ大陸の北西海岸に位置する首都ラバトを出発し、アトラス山脈山麓のアズルー、山脈を越えて乾燥地のエルラシディア、ワルザザートと進みました。そして、さらにサハラ砂漠の玄関ザゴラまで足を伸ばし、再び山脈を越えて海岸のアガディールに到着して終了となりました。



アトラスシーダーの森林



コルクガシの森林



ヨモギ類とイネ科植物の草原



アカシアの疎林

調査は、代表的な植生が見られるところで車を止め、植生概要と出現植物を記録し標本を採集します。全行程で約100種類の植物を採集することができました。今回の調査で見ることができたおもな植物を紹介します。

まず、アズルーまでの湿潤な地中海性気候のところでは、オリーブ畑やワインのブドウ畑などが見られましたが、樹皮がコルクの原料となるコルクガシの森林が広がっていました。コルクガシは日本のウバメガシに近縁のブナ科の樹木で、ヨーロッパと北アフリカの地中海沿岸地域を代表する植物です。

アトラス山脈の中腹では、アトラスシーダーの森林が広がっていました。アトラスシーダーは、アジアのヒマラヤスギとともに、マツ科ヒマラヤスギ属に属する樹木で、この地域を代表する植物です。この森林を観察することは今回の調査の目的のひとつでしたので、その喜びはひとしおでした。

アトラス山脈を越えると乾燥地に入り、ヨモギのなかまやイネ科植物の草原を見ることができました。私が研究していたユーラシアステップとの関係に興味をそそられました。また、今回の調査で訪れた中で最も乾燥したザゴラ周辺では、アカキア・ラディアナの疎林を見ることができました。この植物は、アフリカのサバンナに見られるアカシアのなかまです。地中海に近いモロッコも、植生の面ではアフリカの一員であることを実感した瞬間でした。（企画課 小幡和男）

「水の生き物コーナー」展示再開！

3月から4月上旬の間、ろ過槽の交換工事のため、水槽での魚の展示を中止していましたが、この度工事が無事に終了し、魚たちが水槽に帰ってきました。

一時引っ越しをしていた魚たちをトラックで輸送し、水質を確認しながら徐々に水槽内に戻していきました。今では、私たちの苦勞も知らず、何事もなかったかのように元気に水槽内を泳ぎまわっています。

また、工事期間中に行っていた特

別企画「おさかな選挙」の結果も出ました。おさかな選挙とは、私たちが選んだ候補の中から、お客様の投票によって展示する魚を決める企画です。結果は、全体の投票数の約40%にのぼる票を獲得したネコザメに決まりました。現在、ネコザメも展示水槽に迎え、ろ過槽工事前とは一味違った展示がお楽しみいただけます。

設備も展示も新しくなり心機一転。今後も新たな展示や企画に挑戦

おさかな通信

し続けますので、第3展示室水の生き物コーナーにも是非ご注目ください。（水系担当 数内雅英）



ネコザメ

世界のクマコレクション

収蔵品紹介

世界には熱帯から北極までのさまざまな環境に8種のクマが生息しています。2016年9月、当館では唯一収蔵がなかったジャイアントパンダの剥製を個人の方から寄贈していただいたことで、クマ科動物8種すべての剥製がそろいました。私たちになじみのあるツキノワグマは日本の本州や四国に生息するほか、中国やロシア、台湾にも分布しています。北アメリカにはツキノワグマに似たアメリカクロクマが生息しています。北海道に生息するヒグマはユーラシア大陸北部や北アメリカなどに広く分布し、世界全体のクマの個体数を合算すると最も多く生息する種です。一方、あまり聞きなれないクマとして、毛の長さや顔つきが個性的な3種があり、インド周辺に生息するナマケグマ、南アメリカのアンデス山脈北部に生息するメガネグマ、東

南アジアに生息するマレーグマがそれにあたります。また、陸上最大の哺乳類であるホッキョクグマや、黒と白のユニークな模様のパンダも、クマのなかまです。

当館ではこれらの収蔵品を活用して2008年に企画展「熊一森のアンブレラ種」を開催し、クマの生態や最新の研究成果を紹介しました。また、今年は入館者数が1000万人に達することを記念して、特設展示「世界のクマ8種全部集まれ！」を開催しました。クマの剥製は迫力があり、大人も子どもも熱心に見ている姿が印象的でした。野生動物は直接観察が困難であるため、剥製は間近に観察ができる貴重な資料となります。今後も当館ではさまざまな資料の収集を進めるとともに、来館者の方々に驚きと発見をしてもらえるような展示を目指していきます。（教育課 後藤優介）



個性的な表情のクマ3種(左からナマケグマ、メガネグマ、マレーグマ)



特設展示のようす(左からホッキョクグマ、ヒグマ、ツキノワグマ、アメリカクロクマ)

大きいパンダと小さいパンダ

ジャイアントパンダとレッサーパンダ。この2種は手首の骨の一部が指のようになっている共通点などから、かつては同じなま（パンダ科）と考えられ、大きい（Giant）パンダと小さい（Lesser）パンダという名前が付けられました。後にクマ科やアライグマ科に近いとする説も提唱され議論が続けられてきましたが、近年は遺伝子の研究からジャイアントパンダはクマ科に、レッサーパンダはレッサーパンダ科に分類されてい

なるほど博物館 このコーナーは、自然に関するさまざまな情報をわかりやすくお伝えするコーナーです。

ます。また、レッサーパンダと混同されることが多いアライグマは名前にクマと付きますがアライグマ科に、アナグマはイタチ科に属します。これら4種はすべて違う科に属しながらも、目の周りが黒いという共通点があり、進化の不思議さを感じさせてくれます。ちなみに、アライグマは英語でラクーン（Raccoon）といいますが、イヌ科のタヌキはラクーン・ドッグ（Raccoon dog）（＝アライグマイヌ）とよばれています。（教育課 後藤優介）



2016年に当館に寄贈されたジャイアントパンダの剥製



クマのなかまと間違われやすい動物(左からレッサーパンダ、アライグマ、ニホンアナグマ)

トピックス

○アンモナイトを見つけにいこう

5月21日(土)に、第68回企画展「アンモナイト・ワールドー恐竜時代の海へいこうー」の記念イベント「アンモナイトを見つけにいこう」を実施しました。

午前中は、いわき市アンモナイトセンターにおいて活動を行いました。アンモナイトセンターの中田健太郎研究員からアンモナイトや双葉層群のレクチャーを受けた後、実際の露頭で発掘体験を行いました。アンモナイトやサメの歯、二枚貝の化石を見つけることができ、参加者の多くの方が実際に化石を採集することができました。

午後は日本を代表する化石である「フタバスズキリュウ」の産地を見学しました。その後、入間沢川に移動し、同じ双葉層群でも少し時代の新しい玉山層の地層から化石の採集を行いました。中生代の地層はとても硬く、ハンマーとタガネを使っても少しづつしか削ることができません。苦勞している方が多かったですが、コハクの化石を見つけることができた参加者がいました。

今回のイベントを通して、アンモナイトだけでなく、古生物への関心を高めることができました。

(教育課 相田裕介)



入間沢川での化石発掘

○新しい動く恐竜のニックネーム決定！

2017年3月18日、第2展示室のジオラマ展示「恐竜たちの生活」がリニューアルオープンしました。これを記念し、昨年7月23日から11月23日までの期間、ホームページおよび館内掲示などで新しい動く恐竜(ティラノサウルスおとなロボット、ティラノサウルスこどもロボット、トリケラトプス)のニックネームを募集しました。

館内審査会による選考の結果、応募総数847点の中から、以下のとおり決定しました。

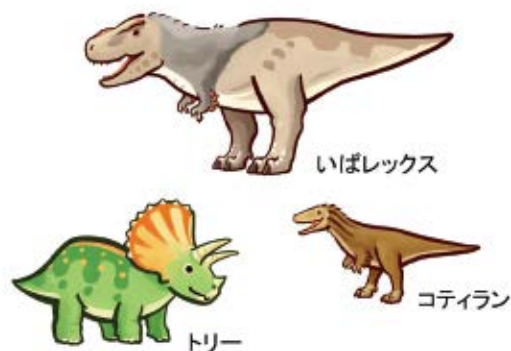
ティラノサウルス おとなロボット：いばレックス
(茨城の「いば」とT.rexの「レックス」)

ティラノサウルス こどもロボット：コティラン
(子どもの「コ」とティラノサウルスの「ティラン」)

トリケラトプス おとなロボット：トリー

(トリケラトプスの「トリー」)

あわせて、それぞれの恐竜をもとにしたオリジナルキャラクターも誕生しました。恐竜たちを、これからもどうぞよろしくお願いします。(企画課 松浦卓也)



新しい動く恐竜のキャラクター

(イラスト:ツク之助)

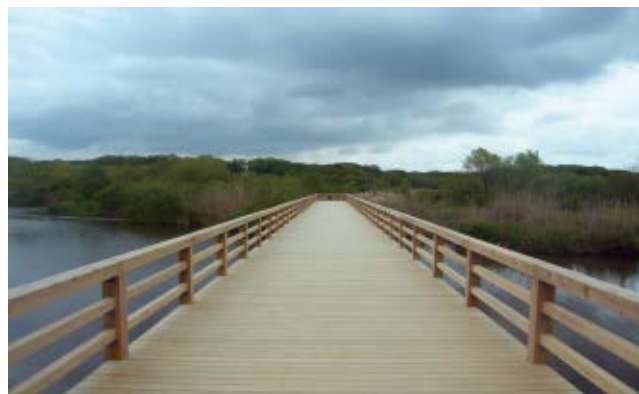
○ふれあい橋・あすなろ橋の整備を進めています

当館の東側に広がる菅生沼は、多くの動植物が生息し、本県最大の自然環境保全地域に指定されています。対岸のあすなろの里までは、ふれあい橋とあすなろ橋の2つの橋がかけられています。この2つの橋は、当館の開館にあわせてつくられましたが、20年以上が経過し、老朽化が進み、床板が腐ったり、手すりが緩んだり、危険な状態になっていました。

そこで、2017年1月から工期を2期に分けて、工事を行うことになりました。第1期工事は、今年の1月から4月にかけて行い、全体の約3分の1が完成しました。未整備部分(全体の約3分の2)は、第2期工事として、今年の11月頃から来年の3月頃にかけて行う予定です。

第2期工事がはじまるまでは、一部古い橋を渡っていただくことになります。足下や手すりなど、危険なところもありますので、十分注意して通行してください。

また、第2期工事期間は、橋を通行することができません。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。(管理課 泉水正和)



ふれあい橋

入館者 1000 万人を達成!!



橋本知事からの記念品授与

2017年5月28日(日)、当館の入館者が1000万人に達しました。1994年11月の開館以来、22年と約6か月での達成です。

記念すべき1000万人目のお客様は、埼玉県さいたま市から来館された青山泰虎さん(8歳)でした。記念式典では、多くのお客様が見守るなか、到達見込みを聞き駆けつけてくださった木村敏文坂東市長、山口武平博物館協議会委員、中村静雄坂東市商工会会長、助川幹夫友の会会長、橋本 昌県知事、小野寺 俊県教育長とともに、くす玉割りを行いました。そして泰虎さんには、横山館長から1000万人目の入館証明書が授与され、さらに橋本知事から、企画展グッズやレストランの食事券、ティラノサウルスのフィギュアなどがプレゼントされました。泰虎さんは、おばあさん、お母さん、お姉さんと家族4人で来館されました。「博物館に来るのは3回目です。自分が1000万人目の入館者



ハンカチノキの記念植樹の様子

だと聞いてびっくりしました。」といった感想をいただきました。続いてハンカチノキの記念植樹を行いました。ハンカチノキは、春になると白いハンカチのような大きな花を咲かせます。その花を^{すがおぬき}に飛来するコハクチョウに見立て、今回記念植樹に選定しました。

当館は、これからも1500万、2000万と多くのお客様をお迎えし、みなさまに楽しんでいただけるようなイベントや企画展を開催していきたいと考えています。花木の広場に定植したハンカチノキの成長とともに、博物館を見守っていただければ幸いです。これからもぜひ博物館にご来館ください。(企画課 中里 賢)

編集後記

今年度よりA・MUSEUMの編集を担当しています。今号は、1000万人目のお客様をお迎えしたという記念すべき記事を掲載することができました。これからも皆様に愛される博物館でいられるよう、この紙面からも、少しでも博物館の魅力をお伝えできれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。(MU)

[交通案内]



【車ご利用の場合】

- 常磐自動車道谷和原ICから20分
圏央道坂東ICから25分

【鉄道・バスご利用の場合】

- 東武アーバンパークライン(野田)愛宕駅下車
～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車
～「自然博物館」下車、徒歩10分
- つくばエクスプレス 関東鉄道常総 守谷駅
下車～関東鉄道バス「岩井バスターミナル行き」
乗車～「自然博物館」下車、徒歩5分

※事前に発車時刻等をご確認ください。



[開館時間]

9:30から17:00まで
(館は16:30まで)
※ペット、遊具、テ
ブル、椅子及びテ
ント等のお持ち込みは
ご遠慮ください。

[館料]

区 分	本館・野外施設		野外施設 のみ	年間 パスポート
	企画展開催時	通常時		
一 般	740円 (600円)	530円 (430円)	210円 (100円)	1,540円
高校・大学生	450円 (310円)	330円 (210円)	100円 (50円)	1,030円
小・中学生	140円 (70円)	100円 (50円)	50円 (30円)	310円

(注):()内は団体料金(20名以上)です。
未就学児・満70歳以上の方・障害者手帳をご提示の方及び付添人(当該
障害者等1人につき1人)は 館料無料です。

次の日は入館料が無料です。

- 5月4日(みどりの日) ●6月5日(環境の日)
- 11月13日(茨城県民の日) ●3月21日(春分の日)
- 高校生以下の児童・生徒は毎週土曜日
(ただし、春・夏・冬休み期間を除きます。)

[休館日]

- 毎週月曜日
- ※6月19日(月)～6月24日(土)は館内整理のため
休館となります。
- ※7月17日(月)、9月18日(月)は開館し、翌日は
休館となります。
- ※8月14日(月)は開館いたします。



自然博物館ニュース A・MUSEUM (ア・ミュージアム)

A・MUSEUM (AMUSEMENT + MUSEUM)

企画・編集:ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課/発行2017年6月15日
〒306-0622 茨城県坂東市大崎700番地 TEL.0297-38-2000 FAX.0297-38-1999
URL: <https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/>
E-mail: webmaster@nat.museum.ibk.ed.jp

Facebookもチェック



ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
会すると 館料が無料!! (年会費)

家族会員 4,000円 個人会員 3,000円
子ども会員 1,000円 賛助会員 10,000円
※特典 イベントへの参加、ショップ・レストランでの割引

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、誰もが親しめ、誰もが楽しめるア・ミュージアム(アミューズメント+ミュージアム)をめざしています。